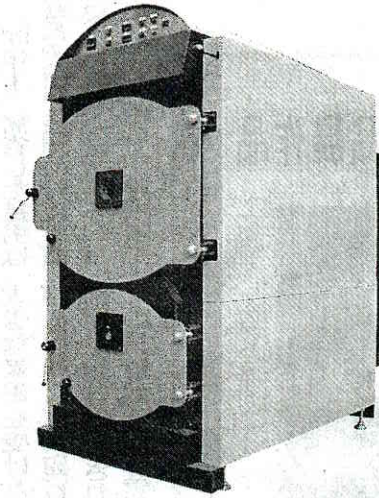


## 県内産学3者



小売するアイスガスを再燃焼させる「ガシオ」。木質バイオマスで発生した高温の燃焼エネルギーを1000度で再燃焼させる。

# 間伐材ボイラー 利活用狙い提携

県内大学の技術移転機  
関・新潟TLO(新潟市  
西区)と新潟バイオリサ  
ーチパーク(同市秋葉  
区、生ごみ処理機販売  
のアーク(同)は15日、  
間伐材などのバイオマス  
燃料を燃やし熱エネルギー  
を発生させる小型ボイ  
ラーの利活用で業務提携

すると発表した。低炭素  
社会の実現に向け、ボイ  
ラーシステムの普及など  
に共同で取り組む。  
ボイラーはアークと山  
形屋(栃木)が昨年、初  
めて国産化した「ガシオ  
アイアー」と呼ばれる二  
つの燃焼室を持つ装置。  
燃焼効率が高く給湯や暖

房、自家発電に活用でき、  
灯油に比べ大幅にコスト  
を削減できる。現在、国  
内で輸入機を含め8機が  
稼働している。  
共同事業ではボイラー  
システムの販売のほか、  
二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出  
権を取引するカーボンオ  
フセットの提案や燃料電  
池と組み合わせた発電シ  
ステムの構築、地域住民  
やNPOと連携した環境  
保全活動などに取り組  
む。

同日、アーク本社で会  
見した新潟TLOの結城  
洋司社長は「地元企業か  
ら出発した温暖化対策技  
術の普及に協力したい」  
と説明。アークの岩城和  
男専務は「TLOやバイ  
オリサーチパークの全  
国ネットワークを使い、  
環境技術の利活用への  
啓発を期待したい」と述  
べた。

販売は全国の官庁、企  
業、学校、旅館、団体な  
どを対象に、2010年  
度は7ユニット計5千万  
円の販売を目指す。ボイ  
ラーの本体価格は約40  
0万円。周辺設備を含め  
1ユニットで総額700  
万〜800万円。